２０１３／０５／０５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：わたしについて来なさい　２
聖書箇所：マタイの福音書　１９章２７－２８節

前回から学び始めましたが、ひとりの金持ちの役人が主イエス・キリストのもとに来て、**「永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」**（マタイ１９：１６）と問いかけました。そこで、イエス・キリストはどうすれば永遠のいのちを得ることができるのか、そのことを彼に教えられました。それを聞いていたイエスの弟子たちは疑問を抱きました。ペテロが代表して主イエスに質問をしています。そのことを私たちは前回から見たのです。マタイ１９：２７にはその質問がこのように記されています。**「そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」**と。前回も見たように、これはペテロ自身の信仰の告白です。彼は二つのことを私たちに教えてくれました。

（１）私たちの信仰は神を第一に愛すること

ですから、ペテロはここで「私はあなたを何ものよりも、この世のいかなるものよりも、そして、自分自身よりも愛します。」と言うのです。

（２）私たちの信仰は神に従うこと

「私は何があってもあなたに従います。」と言います。

ことばの表現は違ってもここにペテロ自身の信仰の告白を見ます。そして、ここにおられる皆さんもこのような決心をもって救いに与った人であると信じます。「イエスさま、私はあなたを信じ、あなたに従っていきます。なぜなら、あなたは私の神であり、私を罪から救い出しでくださった唯一の救い主であり、そして、あなたこそが主の主ですから私はあなたに従います。」と、このような決心にあなたが至ったのは、あなたが特別に優れていたからではないと見て来ました。すべて、それは神の恵みでした。神ご自身がそのように働き、そのような決心に至らせてくださったのです。

私たちはすでにエゼキエルのみことばを見ました。エゼキエル１１：１９，２０**「:19 わたしは彼らに一つの心を与える。すなわち、わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。:20 それは、彼らがわたしのおきてに従って歩み、わたしの定めを守り行うためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。」**、３６：２６，２７**「:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」**、エゼキエルを通して預言されたことは「神ご自身が神に逆らっている罪人から石の心を取り除く」ということです。「石の心」とは「正しい道から外れた、邪悪である、頑迷、強情、非を認めない心」という意味です。つまり、神に逆らっている私たち罪人から、そのような心を神ご自身が除いて、そして、神が私たちのうちに「肉の心」を与えるということです。「肉の心」というと罪の心と思いますが、そういうことではありません。頑なな「石の心」と対比しているのです。

そして、その結果、その人は神のおきてに従って生きていきたい、神が命じることを実践していきたい、神のみこころに従って生きていきたいと、そのような人へと神ご自身が生まれ変わらせてくださるのです。これが神の救いのみわざであると聖書が教えています。このようにして神によって救われたゆえに、その人はどんな困難があっても神に従い続けていこうとするのです。ですから、悲しいことに、私たちの間でよく聞かれる会話は、信じたと言った人たち、また、聖書に興味をもっている人たちが、神から離れていかないために余り厳しいことを言わないように、彼らが聞きたいこと、彼らが聞いて喜ぶようなことだけを語っていくべきだということです。人間的には分かりますが、それは正しくないと分かっています。なぜなら、救いというのは神のわざだからです。私たちが人を救うのではありません。神ご自身が救われるのです。ですから、私たちの責任は、主の祝福と主の働きを信じて主ご自身が語りなさいと命じられたとメッセージを語り続けていくことです。

それはもう何度も見て来たように非常に厳しいものです。「狭い門からはいりなさい」という厳しいメッセージでもありました。今話していることを説明します。マタイの福音書１３章に種蒔きのたとえがあります。四つの地に蒔かれたことが記されています。道ばたに蒔かれた種と岩地に蒔かれた種といばらの中に蒔かれた種、そして、良い地に蒔かれた種が出て来ます。イエスはなぜこのようなたとえを話されたのでしょう？これは救われているようで実はそうでない人のことをたとえているのです。ですから、岩地に蒔かれる人、いばらの中に蒔かれる人、道ばたに蒔かれる人はすべて救いに与っていない人たちです。でも、一見すると、彼らは救われているように見えるのです。もう少し説明します。マタイ１３：２０からをご覧ください。**「:20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入**

れる人のことです。:21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。」、「岩地に蒔かれた人」は困難や迫害がやって来ると信仰から離れてしまう人です。つまり、このような人の信仰は見かけだけ、表面だけのものです。彼らの信仰はどちらかと言うと感情的なものです。何となく信じた、何となく熱いものを感じて信じたというようなものです。残念ながら、この信仰は理性に基づいていないのです。

私たちは何となく信じたのではありません。根拠があるのです。私たちの信仰は理性に基づくものです。真理をしっかりと理解してそれを信じたのです。ですから、２３節で「良い地に蒔かれた種」を見ると**「みことばを聞いてそれを悟る人のことで、…」**と書かれています。感情的ではなく、聞いたみことばを正しく理解してそれに応答して行くのです。ですから、「岩地に蒔かれた人」とは見かけは信仰者であっても、実はそうではないと言えます。

もう一つのケースは「いばらの中に蒔かれた人」です。２２節に**「また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。」**とあります。イエスが教えられたように、この人はこの世の心遣いと富の惑わしがいつも邪魔をするのです。なぜなら、彼らはまだこのようなものを愛しているからです。この人の関心はこの世のことと富です。ですから、みことばを聞くけれど心は全然違う方を向いているのです。もしかすると、どちらも信じることによって何か良いものがいただけると聞いた可能性があります。信じたらこんなにすばらしい祝福があります。このようなすばらしいものをもらえますと聞くなら、彼らは信じるでしょう。だれでも、地獄よりも天国に行きたいからです。問題はその信仰は果たして神が与えたものかどうかです。

なぜなら、「良い地に蒔かれた種」とは本当に救われた人のことだからです。２３節を見てください。**「ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」**、主がここで言っておられることは何倍もの実を結んだから救われているということではありません。救われている人は必ず実を結ぶということです。神によって救われたならその人は変えられて行くということです。それは生きる目的が変わり、生きる方向も変わったからです。

ですから、聖書が私たちに教えていることは、神がその罪人を救ったなら、神はその人を生まれ変わらせてその人が実を結ぶような、つまり、救われる前の生き方とは異なる生き方へとその人を導いて行くということです。パウロはＩコリント３：６，７でこのように言っています。**「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。:7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」**と。つまり、パウロは**「私が植えて、アポロが水を注ぎました。」**とパウロとアポロは伝道に福音宣教に励んでいたと言いますが、一番大切なのは**「成長させてくださる神」**、種が芽を出して来るその働きを担っておられる神ご自身だと言うのです。ですから、「救い」は主によって与えられるものです。だから、神によって救われた人は絶対に救いを失うことはないのです。神が救いをお与えになったからです。

Ａ．約束の祝福

このようなことを踏まえた上で今日のテキストを見てください。マタイの福音書１９章、**「永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」**という問いかけをした一人の役人に対するイエスの答えを聞きました。そして、悲しいことに、この役人は永遠のいのちを選択しないで自分の富を選択してその場を去って行きました。そのような一連のやり取りを見ていた弟子たちは、イエスのもとに来て質問をするのです。先ほど読んだ２７節です。**「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」**。この最後の箇所を直訳すると「それでは私たちには何があるのでしょう。」です。金持ちの役人とのやり取りを聞いていた彼らはイエスにこのような質問をしたのです。少なくとも、私たちみなが知っていることは、クリスチャンであろうとなかろうと、すべての人はいつか神の前に立つということです。イエス・キリストを知らない人たちの間でも、そのようなことを覚え、考え、また、そのことを恐れている人たちがたくさんいます。だから、考えないようにするのです。しかし、私たちクリスチャンは聖書を学び、聖書からすべての人は必ず神の前に立つ日がやって来ることを知っています。

ローマ１４：１０，１２を見てください。**「それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。」**、**「こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」**と、そういう日がやって来るのです。さばき主なる神の前に一人一人が立って、その人生の精算をする時です。その時に神からあなた自身の歩みに関しての正しい評価が下ります。イエス・キリストの恵みによって救われ、イエス・キリストの奴隷として生きて来られたあなたが、信仰者として歩んで来た人生の正しい評価が神によってくだるその日です。

そのことに関して、先ほども見ましたが、Ｉコリント３章でパウロは大切なこと教えてくれています。３：８**「植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。」**と、注目して頂きたいのは**「一つですが、」**と記されていることばです。その前後を見ると何のことを話しているのかがよく分かります。６節には**「私が植えて、アポロが水を注ぎました。」**とあり、８節では**「植える者と水を注ぐ者は、」**と書かれています。パウロ自身、また、パウロと同じ働きをしている人たちのことです。だれかが出て行ってキリストの福音を伝え、だれかがその働きのフォローをするということです。そして、それに関してパウロは「一つだ」と言います。パウロが言わんとしているのは、宣教の働きはチームによる共同作業のようなものだということです。みながいろんな働きを担っているのです。実際に現場に行って働きをする人、背後にいてそれをサポートする人たち、私たちの教会でもやっています。例えば、私がどこかに出かけて行って神のみことばを教える時に、皆さんは祈ってくださっています。そのようにして私たちはチームとして働いているのです。

そして、みことばが教えることは、神の前では、前面に立って働きをしている人も、後ろにあって祈っている人も同じだということです。神は「前に立って話をしている人がそうでない人に比べてすばらしい」とはおっしゃっていません。「一つだ」と言われました。ですから、出て行って話をする人、出て行って働きをする人たち、留まって祈りで支えている人たち、神はみな同じようにご覧になっておられるのです。どちらの働きも神はお喜びになっています。私たちは何となく前面に立って働きをしている人の方が優れているように思っていませんか？神はそのようには見ておられません。みな喜んでくださっています。なぜなら、これはチームとしてみなでやっていることだからです。

ただ、８節を見ると続いてこのように書かれています。**「それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。」**と。神はどの働きも同じようにご覧になっておられ、どちらかが優れてどちらかが劣っているというようにはご覧にならないと言います。神の関心は、どこかに出て行って働きを為すことであれ、留まっていることであれ、その働きをどのような思いをもって為しているかということです。神の関心は、あなたが神から与えられたその命令を積極的にしているか消極的にしているかということです。神の関心は、あなたが神から命じられたことを喜んで忠実に行なっているか、それとも、いやいやながらやっているかということです。ご存じのように、私たちが主の前に立った時に神が言われることは「良くやった。良い忠実なしもべよ。」です。「いくら儲けた」なんてことは神の関心ではなかったのです。神の関心は、それぞれが与えられた任務をそれぞれが忠実に果たしたかどうかです。主はみことばを通して私たちが何をするべきかを教えてくださっています。その命令に対して私たちが忠実かどうか、それが神が私たちに問われることです。

ですから、このＩコリント３章で私たちに教えているように、私たちはみなチームとなってそれぞれの賜物を生かして働きするのです。でも、我々一人一人が自らに問いかけて、注意しなければいけないことがあります。どんな思いでそれをやっているかということです。そして、神があなたに問われることは、あなたは神の教えに対して忠実に従っているかどうかということです。だから、私たちは正しい動機を持って、主のみこころに積極的に忠実に従い続けて行くことです。

今日のテキストに戻って、主はここでペテロに対して答えを与えます。それは「ペテロよ、神の祝福があります。わたしを信じわたしに従って来た者たちには祝福があります。」です。実は、この２８節と２９節を見ると、ここには三つの祝福が記されています。もちろん、この祝福はこの質問を問うた弟子たちに対して与えられたものです。しかし、少なくとも言えることは、この１２使徒たちでなくても、ユダヤ人でなくても、同じように主の恵みによって救われた者たちが主に忠実に従って行くなら、神はすばらしい祝福を用意してくださっているということです。

◎主が教えられた三つの祝福

１．イスラエルの十二の部族をさばく　　２８節

「:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。」

２．犠牲の幾倍も受ける　　２９節

「:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、…」

３．永遠のいのちを受け継ぐ　　２９節

「…また永遠のいのちを受け継ぎます。」

主はこの三つの祝福をペテロに、そして、使徒たちにお話しになったのです。順番に見ていきましょう。

１．イスラエルの十二の部族をさばく　　２８節

Ｑ．これはだれに対する祝福か？

Ａ．十二使徒への祝福

先ほども言ったように、この質問をしたペテロ、そして、ペテロといっしょにいた使徒たち、十二使徒への祝福です。彼らに対する約束です。なぜなら、**「あなたがたも十二の座に着いて、」**とあるからです。使徒たちが十二人いたのです。そして**「イスラエルの十二の部族をさばくのです。」**と言います。この使徒たち、もちろん、このときはイスカリオテのユダもいましたが、彼がイエス・キリストを裏切った後、「くじ」によってマッテヤが与えられました。この十二の使徒です。彼らにこのような約束が与えられたのです。主イエス・キリストとともにこの十二の使徒たちはイスラエル民族をさばくと言います。細かいことはここに記されていませんが、その約束をペテロは主から頂くのです。

◎いつそのことが起こるのか？

では、いったいいつそのようなことが起こるのでしょう？**「世が改まって人の子がその栄光の座に就くとき、」**と教えています。その時にこのようなことが起こるとイエスは言われました。いったい、いつのことでしょう？今、主は二つのことを言われました。まず後半から見て行きます。

（１）キリストの再臨のとき

「人の子がその栄光の座に就くとき、」です。実は、この件に関してイエスはこの後でマタイの福音書の２５章に書かれていますが、オリーブ山で同じことを話されています。２５：３１**「人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。」**。今、私たちが見ている１９：２８と同じことがここに記されています。いったい何のことでしょう？皆さんに思い出していただきたいことは、主イエス・キリストは十字架で亡くなってその三日後に死からよみがえって来られた。４０日間この地上におられて肉体をもってよみがえって来たことを人々の前に明らかにされました。そして、まさに主が天に凱旋なさろうとする時です。その時にイエスは**「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」**（使徒の働き１：４）と言われました。何のことでしょう？１：５にあるように彼らは**「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」**と聞いたのです。それを聞いたユダヤ人たちは喜んだのです。なぜですか？自分たちが長年待っていたこと、自分たちの先祖から聞いて来たある約束が今やっと成就するのではないかと思ったからです。そこで彼らはこのような質問をするのです。１：６**「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」**と。それに対してのイエスのお答えが**「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。」**です。

「今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」という質問に対してイエスは**「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。」**とお答になりました。このイエスのお答えの中にはそのようなことは絶対に起こらないという否定は記されていません。却って、イエスはその日が来ることを教えておられます。ただその日がいつなのか？そのことはあなたがたは考えなくてもいい、父なる神がちゃん決めておられるからと言うのです。このことを皆さんの頭に入れておいてください。そして、マタイ１９章、２５章に記されている通り、人の子が栄光を帯びてやって来るのです。そのとき何が起こるのか？国が再興されるのです。神はこの地上に主イエス・キリストを王とした王国をお築きになるのです。みことばはそれが千年の間であると教えています。黙示録２０：４を見ると、**「…千年の間王となった。」**と書かれています。今、詳しいことを見る時間はありませんが、マタイ１９章や２５章には、人の子が戻って来るその目的は、彼は王国を築き、栄光の位に着いてすべてを治めること、そして、イエス・キリスとともにこの十二の使徒たちはイスラエルの十二部族をさばくということであると記されているのです。そのことをイエスはここでお話しになったのです。ですから、**「人の子がその栄光の座に着くとき、」**とはキリストが再臨される時です。この地上にキリストが帰って来られる時です。そして、その後、主イエス・キリストは千年王国を築かれるのです。

（２）万物の改まるとき

また、１９：２８をもう一度見ると**「人の子がその栄光の座に着く時、」**とあり、その前に**「世が改まって」**と書かれています。この使徒たちがイエスとともに十二の御座に着いて十二の部族をさばく、その時に世は改まると主がお教えになったのです。この**「世が改まる」**とはどういうことを教えているのでしょう？使徒の働き３章にペテロがこのように語っている箇所があります。３：２１**「このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」**と。ということは、万物の改まる時にはイエスは天にとどまっていないのです。地上に帰って来られます。その時に何が起こるのでしょう？

<u>自然界が解放されるとき</u>

この時には自然界に大きな変化が起こります。すでに学んだ箇所ですが、ローマ８：２１**「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」**と、これは自然界に大変な変化が起こるということです。

（１） 滅びの束縛から解放され

パウロはまずこの時には被造物が**「滅びの束縛から解放される」**と言います。被造物、いのちあるものは死んでいきます。なぜなら、のろわれているからです。そこから解放されるということです。死を経験することのないように神は造り変えると言うのです。

（２）神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます

そして、**「神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」**と、人間の罪ゆえにのろわれてしまったこの自然界が、そののろいから解放されて自由にされるということです。

簡単に、三つのことを言います。

・**地形に変化**＝ゼカリヤ１４：４，５，８，１０、イザヤ５５：１３を見ると**「いばらの代わりにもみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。」**と記されています。のろわれていたところが祝福の場所に変わるということです。

・**砂漠の変化**＝また、その日には砂漠にも変化が起こります。イザヤ３５：１－１０、エゼキエル３４：２６，２７、ヨエル２：２２－２７に書かれています。イザヤ３５：１を見ると**「荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、サフランのように花を咲かせる。」**とあります。エゼキエル３４：２６，２７にあるように、神が祝福の雨をもたらし、野の木が実を実らせるのです。ヨエル書２：２２－２７にあるように、荒野の牧草は萌え出ます。荒野の中から植物が芽を出し、また、木はその実を実らせていきます。

・**肉食獣に変化**＝肉食獣にも変化が起こって来ます。イザヤ１１：５－９、６５：２５、３５：９、エゼキエル３４：２５、ホセア２：１８に書かれていますが、イザヤ１１：６－８には**「:6 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。:7　雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。:8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。」**とあります。殺し合っていた肉食獣の中にも変化が起こると言うのです。このようなことが約束されています。

いったい、これはいつ起こるのでしょう？「世が改まったとき」です。主イエス・キリストがこの地上に帰って来られた時に、そのような変化がこの地球に起こると言うのです。キリストの再臨とともにそのような変化が起こり、そして、その後、主ご自身がイスラエルの人々が待望していた王国を築かれると、そういうことをイエスはここで話されるのです。「その時にあなたたちはこのような祝福に与るのだ。」ということを２８節で言われたのです。

２．犠牲の幾倍も受ける　　２９節

二つ目の祝福です。確かに、私たちが天に行くと大きな祝福があるのですが、この地上にいても私たちはすばらしい祝福を頂くことができると言うのです。**「その幾倍をも受け」**と書かれています。この時、まだ彼らはそれを経験していませんでした。でも、今の私たちはそれを経験しているのです。というのは、イエス・キリストを信じることによっていろんな迫害や困難を経験する、その結果、親子の関係が断絶してしまったり、いろいろなことが起こるでしょう。しかし、イエスが約束なさったのは「あなたたちには霊的な父や霊的な母が、霊的な兄弟がたくさん与えられる。」ということです。今、私たちの周りにはその人たちがいるではないですか？教会はそのような人たちの集まりです。そして、この地上の教会だけではありません。私たちの家族は世界中にいます。ですから、クリスチャンはいつも「世界は狭い」と言います。もっと言えば「クリスチャンの世界はもっと狭い」と言います。どこに行っても我々はクリスチャンに会います。どこに行っても兄弟姉妹に会います。ちょうど、イエスが約束されたように、肉親との関係が難しいものになったとしても、神はちゃんとすばらしい祝福を用意してくださっているのです。このような主にある兄弟姉妹たちが与えられるからです。ですから、そのように考えたときに「教会とは神の家族に属する者たち」と言えます。本来なら、私たちは愛し合って助け合って励まし合って、それぞれの徳を高め合って、クリスチャンとして成長することを願って歩む所、それが教会です。

しかし、私たちがそのように歩み始めようとするなら、サタンはそれをなんとか阻止しようとします。そして、私たちの中に様々な問題をもたらすのです。例えば、人への批判であったり、悪口であったりと、サタンは私たちが本当に一つになっていこうとするその働きを妨げようとするのです。気をつけていないと、私たちはすぐにサタンに利用されてしまいます。そうです。クリスチャンである私たちには周りを見渡すとこの主の恵みによって救いに与った兄弟姉妹がいます。あなたに大切な知恵を与えて、あなたを正しく導いてくれるまさに親のような存在もいます。主はそのことを約束なさったのです。私たちはこの地上にいても、本来なら、このようなすばらしい家族としての関係を楽しむことができるのです。今、私たちはそれを楽しむことができるのです。

３．永遠のいのちを受け継ぐ　　２９節

この永遠のいのちに関して、先ほど見たマタイ２５章をもう一度見てください。ここでイエスは人の子（主イエス・キリスト）がこの地上に戻って来られた後、何が起こるのかということを話しておられ

ます。このマタイ２４章と２５章は、イエス・キリストが私たちクリスチャンを神のもとに導いてくださる空中携挙が起こった後、地上で何が起こるのかということが記されています。この地上からクリスチャンが一人もいなくなってしまった後、地上には大変な苦しみが来ます。患難の時代がやって来ます。そして、その患難の時代の終わりが、先ほどから見ているように、キリストが地上に戻って来られるその時です。そして、地上に戻られて千年の王国を築くまでの間に何をなされるのか、そのことがここに書かれているのです。２５：３１－３３「 **人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。**」、さばきのことです。**「すべての国々の民が」**とはこの患難の時代を生き延びて来た人たちのことです。大変な困難な時代です。

特に、この時代はクリスチャンにとっては悲惨です。黙示録２０：４辺りを見て行くと、**「イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちの」**と書かれています。殉教者がいっぱいいるのです。ある人は思うかもしれません。今、イエスを信じなくてもまた後にチャンスがあると。でも、約束されていることは、この患難時代に信仰を持ち、信仰に至る人たち、神が救ってくださる人たちは確かにいますが、彼らは大変な苦しみを経験するということです。でも、多くの人たちがこの患難時代を通って行くのです。地上に戻って来られた主は何をなさるか？その人たちを二つのグループに分けます。羊と山羊です。もちろん、人間がみな羊と山羊だと言っているのではありません。二つのグループが存在するのです。

１）羊　：　クリスチャンのこと

「羊」とはクリスチャンのことです。ですから、みことばを見ると**「羊を自分の右に、」**とあります。この「右」ということばは特別な意味を持っています。これは「祝福の場所、その人物が好意を示す場所、特別に愛する者がいる場所」です。この王様は羊を自分の右に置かれるとあります。ですから、これはクリスチャンだと見ることができます。３４－４０節**「そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渇いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渇いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。:39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』**。何を言っているのか？この患難の時代に信仰を持った人々は、同じように信仰を持って迫害されている者たちを異邦人ユダヤ人に関係なく助けるのです。そのことを言っているのです。

ただ、主イエスはここで「そのような良い働きをしたからあなたたちは救いに至ったのです。」とは言っていません。ここでイエスは「あなたたちが救われていることがその良い働きによって明らかにされた」と言うのです。なぜなら、先ほど私たちが見た四つの種蒔きのたとえで、良い地に蒔かれたその種は必ず実を実らせるからです。神が救われたなら、神はその人を必ず変えてくださるのです。今見ているように、この人たちはこうすれば救いに与るなどとは思っていません。神によって救われたゆえに、神が喜ばれることを彼らは喜んでしていったのです。そして、神がそのことを評価されているのです。「すばらしい働きをした」と言われます。なぜ、そのようなすばらしい働きを、神に喜ばれる働きをしたのか？それは、もうすでに彼らが神に喜ばれる者と変えられていたからです。つまり、救われていたからです。

２）山羊　：　救われていない人たち

続きを見てください。４１－４５節「**:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。**」と、「山羊」のことです。「山羊」とは祝福に与っていない人、救われていない人たちのことです。「左側」は右側と違って「不名誉な場所、拒絶された者たちの場所」です。その人たちにこのように言います。**『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。:42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渇いていたときにも飲ませず、:43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』:44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渇き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしに**

しなかったのです。』」と、つまり、彼らが救われていなかったのは、彼らの良くない行ないがそれを明らかにしていたと言うのです。

私たちはどちらかです。人間はすべてこの二種類のうちのどちらかに該当するのです。「羊」にはどんなことが約束されたか？羊はさばかれた結果、永遠のいのちへと至りました。４６節に**「こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。」**とあります。この羊、クリスチャンたちは神が約束されたすばらしい永遠のいのちに至り、山羊は永遠の刑罰に入ると言います。４６節で教えている**「永遠の刑罰」**とは「地獄」です。４１節では**「悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火」**と表現されています。サタンのために、サタンの使いたち、つまり、悪霊たちのために永遠の地獄が用意されているということです。そして、人々がこのサタンに従い続けるならば、運命をともにします。彼らは永遠をこのサタンとともに過ごすのです。「永遠の刑罰に入る」と教えているように、そのさばきが永遠のものであることはみことばが教えています。マタイ３：１２には**「手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」**とあり、Ⅱテサロニケ１：９**「そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。」**、黙示録１４：１０，１１**「そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。」**と、このようにみことばははっきりと、罪赦された者たちは永遠の祝福に至るけれど、そうでない者たちは永遠の刑罰に至ると教えています。

イエスはペテロと使徒たちに対して「あなたがたは永遠のいのちが約束されている」と言われました。罪が赦されているからです。だから、私たちもそのことを喜ぶことができるのです。私たちにもこの永遠のいのちが約束されています。私たちはこのように言えるのです。「私たちは死んでも生きる。」と。私たちはこの主とともに永遠を過ごすのです。もちろん、私たちが主にお会いしたときには、千年王国の間もこの十二使徒とは違う働きが約束されています。イエスとともに人々を治めるのです。それを学ぶ時間は今ありませんが、少なくとも私たちが言えることは、イエス・キリストのこの約束、祝福の約束は彼らにだけではない、十二使徒だけにではない、私たちにも与えられているということです。だから、私たちクリスチャンは約束された永遠を覚えながら今日をしっかり生きるのです。そのことをしっかりと心に留めて感謝をもって今日生きていくのです。

結論　：　大切な務めをいただいた

皆さん、あなたが今天にいないでこの地上にいるのはなぜですか？私たちはこの地上にあってしなければならないことがあるからです。Ⅱコリント５：１８－２１に記されているパウロのことばを引用するなら、**「:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。」**、私たちは和解の務めを神から頂いたとあります。神に逆らい続けている者たちが、その罪を悔い改めて神と和解するようにというメッセージを語る責任が私たちに与えられています。私たちがその務めを為すために、神は今日私をこの地上に置いてくださっているのです。私たち信仰者はそのことをしっかりと覚えないといけないのです。あなたにも私にも、まだやらなければいけないことが残っています。このすばらしい救いのメッセージを語ることです。

確かに、私たちには永遠のいのちが約束されました。永遠のいのちを頂いたあなたに神が望んでいることを思い出してください。地上にいる間、私たちがこの方に対して忠実に生きていくことです。神はあなたにこの務めをくださったのです。「出て行って人々に語りなさい」、「神と和解しなさいと語りなさい」と言われます。神はあなたがその命令に忠実に歩み続けるかどうかに関心を持っておられるのです。

すでに見たように、Ⅰコリント３：８に**「植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。」**と、今からでも忠実に歩むことができます。今からでも私たちはやり直すことができます。神のこの命令に対して、この主に対して忠実に歩み続けて行く生き方を今から始めることができます。どうぞ、信仰者の皆さん、神はあなたを救ってくださった。それはこのすばらしい働きのためにです。それなら、しっかりとその働きに目を留めて心を留めて忠実にその働きを為していくことです。そして、そのときに私たちは神に必ず喜んで頂けるのです。「よくやった。良い忠実なしもべよ」と。そのように生きなさいと言われます。どうぞ、そのように生きましょう！このす

ばらしい神の救いを宣べ伝える働きを、この一週間もそれぞれがそれぞれのところで忠実に果たしていきましょう。

《考えましょう》
１．主が約束された三つの祝福を記してください。
２．どうして主によって救われた者は、救いを失うことがないのでしょう？
３．羊と山羊を説明してください。
４．主のために働くときに注意しなければならないことは何でしょう？